

○早植、普通期育苗(25日苗、平床育苗)

**特栽米は種子消毒・育苗中の肥料・農薬は使用できません**

## 早植・普通期育苗

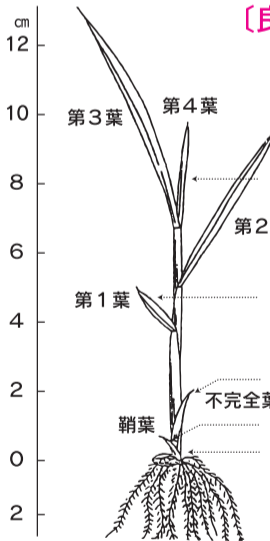
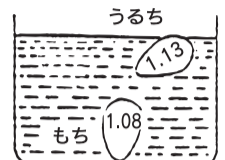
月日	は種前後日数	農家記入	主な作業	管理ポイント
5/6	-10		<b>床土の準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山土の場合 1箱当たり床土4ℓ(2升3合)、覆土は0.9ℓ(5合)準備する。pHは5~6が適当。籾殻くん炭を3分の1程度混ぜる。育苗肥料(4・4・4)を1箱当たり20g混ぜる。</li> <li>・合成培土の場合 1袋(20kg)で6箱分使用する。</li> </ul>
		/	<b>塩水選</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種子は、10a当り3.0~3.5kgを準備する。</li> <li>・塩水選は、表1のとおり塩水をつくり、浮いた籾を取り除く。塩水選をした後は必ず水洗いをして塩分を落とす。</li> </ul>
5/11	-5		<b>種子消毒</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種子量と同量以上の薬液に24時間浸せきする。その間に3回程度混ぜる。</li> </ul>
		/	<b>浸種</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浸種に要する日数は5~7日間程度で、種子をはと胸状態にする。</li> <li>・催芽が十分でない場合、障害が出る恐れがあるので、催芽を十分に行う。</li> </ul>
5/16	0	/	<b>は種</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・は種量は、催芽籾で150g程度とし、できるだけ薄まきする。</li> <li>・は種時に<b>タチガレエースM液剤</b>500倍と<b>ベンレート水和剤</b>500倍液を1箱当たり500ml散布する。図1参照。</li> <li>・平床育苗で太陽シートを使用する場合は必ずベタがけとする。寒冷紗又は不織布の場合は、ベタがけ又はトンネル方式のいずれでも良い。</li> <li>・出芽後カビの発生が見られた場合、は種後14日までに<b>ダコレート水和剤</b>500倍液を1箱当たり500ml灌注する。</li> <li>・被覆資材は、苗丈が4~5cm程度に伸びたら除去する。表-2参照。</li> </ul>
5/21	5	生産履歴は必ず記帳しましょう。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・は種量は、催芽籾で150g程度とし、できるだけ薄まきする。</li> <li>・は種時に<b>タチガレエースM液剤</b>500倍と<b>ベンレート水和剤</b>500倍液を1箱当たり500ml散布する。図1参照。</li> <li>・平床育苗で太陽シートを使用する場合は必ずベタがけとする。寒冷紗又は不織布の場合は、ベタがけ又はトンネル方式のいずれでも良い。</li> <li>・出芽後カビの発生が見られた場合、は種後14日までに<b>ダコレート水和剤</b>500倍液を1箱当たり500ml灌注する。</li> <li>・被覆資材は、苗丈が4~5cm程度に伸びたら除去する。表-2参照。</li> </ul>
5/26	10			<p>【良い苗の条件】</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・苗丈は13~15cmどまり、乾物量は22mg以上。</li> <li>・葉は広く、いきいきとした緑、太刀のようにそる。</li> <li>・第4葉が2cmほど出ている。</li> <li>・第1葉の葉鞘高は約5cm以内(葉耳までの高さ)で高さが揃っている。</li> <li>・不完全葉は4cmどまり、腰が太く巾が2mm以上あり丸みがあって、がっしりしている。</li> <li>・鞘葉は1cm以内。</li> <li>・メソコチルの伸びが少なくない(2mm程度)。</li> </ul>
6/5	20	/	<b>弁当肥</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弁当肥は、田植3日前に、水10ℓに硫酸を30g溶かし20箱にジョロで散布する。散布後必ず葉水をかける。(苗の葉色が濃かったり、徒長苗の場合は、弁当肥は行わない。)</li> </ul>
			<b>箱施薬</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箱施薬については、稲作ごよみに沿って使用する</li> </ul>
6/10	25	/	<b>箱田</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※育苗センターの苗は、すべて箱施薬(ツインターボフェルテラ箱粒剤)入りです。田植前に箱施薬を散布する必要はありません。</li> <li>※箱施薬剤の使用上の注意</li> <li>①施薬量は、必ず1箱50gにする。</li> <li>②箱施薬は育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、薬剤がおちつくように軽くかん水する。</li> <li>③田植当日散布の場合は、苗移動等で薬剤が落ちたりするので注意する。</li> </ul>

表-1 水10ℓに溶かす量

	比重	食塩	硫酸
うるち	1.13	1.94kg	2.68kg
もち	1.08	1.11kg	1.46kg

●生タマゴによる判定



特別栽培米の種子消毒(温湯消毒他の方法)

- ・種籾を60℃のお湯に10分間浸漬。浸漬後、すぐに冷水で冷やす。(温度と時間を厳守する事。温度が高かったり、時間が長いと発芽不良を起こすし、逆に低かったり、短いと消毒効果が低下する。)
- ・温湯消毒を行う場合、種籾の塩水選はしないで下さい。
- ・また、苗もち等の苗病害予防として、浸種~催芽時に24時間エコホーフDJ(微生物農薬)200倍液に浸せきする。さらに、は種直後覆土前にカスミン液剤(抗生物質)5倍液を1箱当たり500ml散布する。

図-1

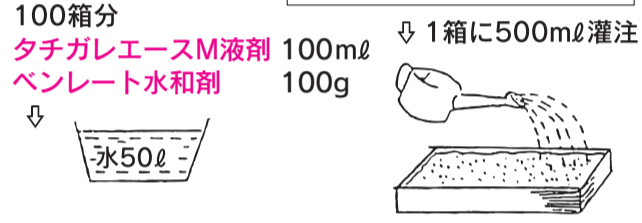


表-2 被覆資材

	被覆日数	注意事項
黒色寒冷紗	8日程度	トンネルにして被覆する方が望ましい
不織布	7~8日	灌水時は不織布を取り除く
太陽シート	7日程度	降雨時・灌水時は取り除く(ベタ被覆の場合)